



日台 新たな懸け橋

JR東十条駅（東京都北区）近くの「ショップリユウリー」。

「玉」が迎えてくれる。台湾の先住民が作るつややかなアクセサリーは独特の雰囲気をもつ。



異境の魅力伝える日々

台湾にはタイヤル族など複数の先住民が住み、とんぼ玉は装飾品などとして古くから伝わ

る。特徴的なデザインに

加え模様一つ一つに「繁栄」「純真」など意味が

ある。1月に店を開いたた。溝上重幸さん（43）は、

溝上さんは台湾でとんぼ玉を調達し、仕事を辞めて日本のノミの市で売

の台湾茶葉を売る。調達も貢献できれば」。

★大倉健太さん（31）は

「専門的すぎる」との指摘も来るが「妥協したくない。顧客の質の向上に

止める日々だ。山本優、浦田晃之介が担当しました。

台湾産の茶を友人と楽しむ「台湾茶ドットネット」店主の大倉健太さん（横濱市港北区）

の生活が始めた。1999年、有名な生産者だからと決めた。小百合さん（38）はバックパッカーとして訪れた台湾には、毎年おいしい茶葉を探す。台湾留学中に先住民の工房に通い、とんぼ玉製作を修業した。「とんぼ玉を通じて先住民の文化や生活を知ってほしい」と溝上さんは話す。

溝上、大倉両氏のように趣味が高じ、生活の手段とする「台湾マニア」が増えている。作家の青木由香さん（38）はバックパッカーとして訪れた台湾には、毎年おいしい茶葉を探す。台湾人の特徴などを面白おかしく伝えた著書「奇怪な」は現地でベストセラーになった。「台湾の良さを伝えるためにも日本でも割合をもっと増やしたい」。台湾を知れば知るほど、日台の懸け橋としての役割を真剣に受け止める日々だ。

2010年3月16日
日本経済新聞（全国版）
夕刊1面で紹介されました